Inside the White House – the Situation Room
ホワイトハウスの内側　－　危機管理室
12/18/2009　(4 分 49 秒)

（日本語字幕は参考のための仮訳であり、正式訳ではありません。）

00:13
こんばんは
00:14
ただ今オバマ大統領に
お取次ぎします
00:18
首相がお出になりました
00:22
ここはホワイトハウスの西棟の
危機管理室の中です
00:27
1日に約 25 回ここで　会議が行われ
00:30
(テロップ:危機管理室副室長　ジェフリー・ハーレー)
00:31
1 日のべ 250 人ほどが
会議に出席します
00:36
ここで開かれる
会議への出席者は
00:40
1 カ月で 5000 人を超えます
00:44
最新の設備が備わっていて
ビデオ会議には
00:48
世界中から 1700～1800 団体が
参加できます
00:52
これは新型インフルエンザ流行に関し

00:55
（テロップ：上級リスク対策部長　リチャード・リード）
00:55
各行政機関の代表による
対策会議です
00:59
ここの技術や能力は
01:01
他の部門や機関を
01:03
召集せずに 電子的に
集結させることができます
01:08
危機管理室は
1961 年 5 月に
01:11
当時の国家安全保障担当補佐官
バンディ氏が創設しました
01:16
特にケネディ大統領は
情報収集に熱心でした
01:21
情報収集の重要性が高まり
01:24
ホワイトハウス内に通信センターが
必要になりました
01:29
2007 年には危機管理室の
大規模な改築が行われ
01:33
床面積が 大幅に拡張され
01:37.
施設の機能も向上しました
01:40
以前は1つだった主会議室が
01:43

3つに増えました
01:45
この大会議室では
01:47
大統領が
国家安全保障会議を開催します
01:51
これは大統領の椅子です
01:53
大統領自身が
ビデオやマイクを操作します
01:58
席順は 出席している閣僚の
年功序列に基づきます
02:04
主会議室に付属の小会議室は
02:08
大統領が1～2 人と個別に
02:11
話し合うために
設けられています
02:15
ここの木質の感触や雰囲気は
02:19
大統領が利用する他の施設
02:23
たとえば
大統領専用機や別荘など
02:27
大統領を取り巻く環境と
02:30- 02:35
材質や音が同じなので
雰囲気も同じです
02:38
特にこの部屋の特徴は
02:41

大統領が相手国首脳に電話をする時に
02:44
会話の機密が
保たれることです
02:48
通話中は
人目を気にせず電話できるよう
02:51
窓ガラスを曇りガラスに
切りかえます
02:55
ここ危機管理室には
多くの電話ブースがあり
03:00
「スーパーマンチューブ」と
呼ばれます
03:04
非機密の通話以外に
極秘通話を扱うことができます
03:10
ここは「監視フロア」です
03:13
状況把握が行われる所です
03:16
いわば融合センターで
毎日 2000 件の情報を統合します
03:22
大統領に提出するため
日報を 3 回 作成します
03:26
日報の基本的な内容は
03:29
大統領が 状況認識するための
03:32
最新情報です
03:36

後ろの部屋は
サージルームと呼ばれ
03:40
危機の際に
一斉に職員が集まります
03:44
電話やコンピューターがいつでも
03:47
使える状態になっていて
緊急時にはそれらを駆使し
03:51
情報を統合して要約し
03:55
ホワイトハウスが
状況判断できるようになっています
03:59
「危機管理室」の名前に
相応しい場所です
04:03
職員の 1/3 は情報機関出身で
04:06
国土安全保障省から 1/3
04:10
残りは軍の出身です
04:12
ここの職員は 政治的に中道で
04:15
民主党でも共和党でもなく
04:18
国と大統領と大統領制を
支えるために働いています
04:24
危機管理室の職員は全員
04:27
国が誇れる優秀な人材です
04:30

その彼らが 最善を尽くして
任務にあたっています
04:42
ところでウルフ・ブリッツァーは
04:45
ここではなく
彼の「危機管理室」で仕事中です

日本語字幕は参考のための仮訳です
字幕作成： 米国大使館レファレンス資料室